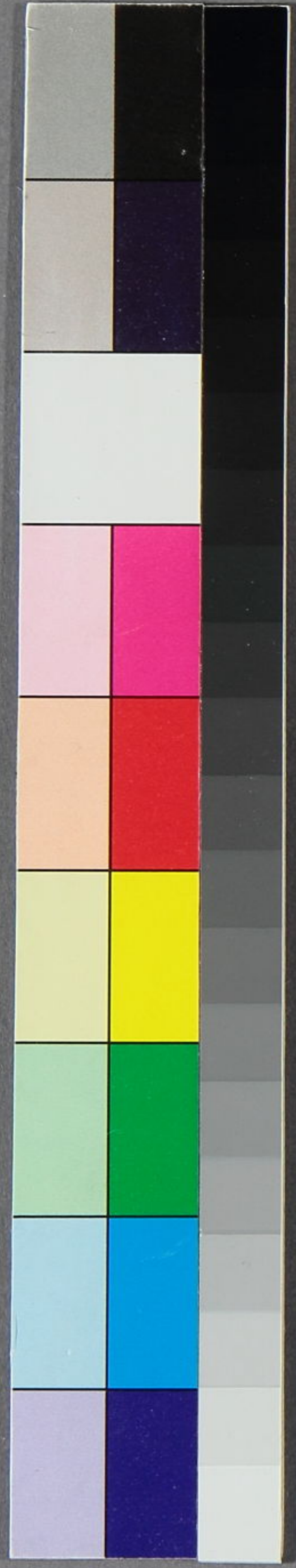


八代集抄

後拾遺卷二三四

二十五

特別  
イ 4  
3163  
104(25)







東宮とてりる。

後朱雀院一孝院皇太子  
母上東門院寛弘六年  
十月廿六日降誕寛  
仁元年八月九日立東宮  
九年長元九年四月十  
七日受福北八葉

わのくももさせうか  
春鹿くさすのうら  
い重なりうらふお  
しむるさひをわ  
のふもさせうか  
おのこあつてさ  
の極の海し

後拾遺和歌集第十一

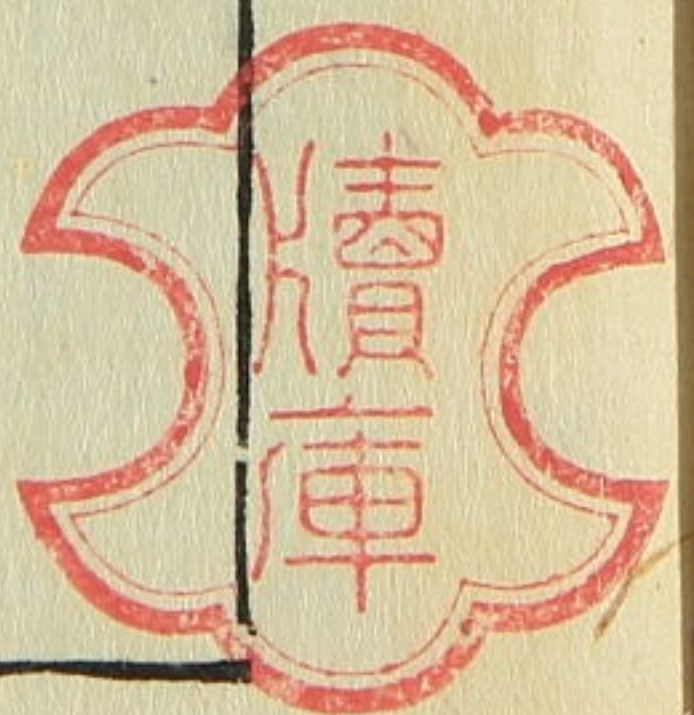
色一

東宮とてりる時故内侍乃りよのものと  
内十五葉 東三三  
よもめさけはうりる。

後朱雀院御製

わのくももさせうか  
くさす乃らうらうら  
塔のいさか  
いもめさけはうりる  
乃らあらら山乃下あうりる

千イカ  
叡覚法師 俗名信綱  
七女要定成子

















とて

わきまの神あり

序まの神あり

しうらつら乃ほ

の身あり

まのあつた

たまのあつた

こまのあつた

身あり

まのあつた

たまのあつた

こまのあつた

身あり

まのあつた

たまのあつた

こまのあつた

身あり

まのあつた

たまのあつた

こまのあつた

身あり

まのあつた

たまのあつた

こまのあつた

身あり

まのあつた

たまのあつた

こまのあつた

身あり

まのあつた

たまのあつた

こまのあつた

身あり

まのあつた

たまのあつた

こまのあつた

身あり

まのあつた

たまのあつた

こまのあつた

身あり

まのあつた

いよなればはとめてはうりけ

原兼澄 わきま

わきまの神あり

しうらつら乃ほ

の身あり

まのあつた

たまのあつた

こまのあつた

身あり

まのあつた

たまのあつた

こまのあつた

身あり

まのあつた

たまのあつた

こまのあつた

身あり

まのあつた

たまのあつた

こまのあつた

身あり

まのあつた

たまのあつた

こまのあつた

身あり

まのあつた

たまのあつた

こまのあつた

身あり

まのあつた

たまのあつた

こまのあつた

身あり

まのあつた

たまのあつた

こまのあつた

身あり

まのあつた

たまのあつた

こまのあつた

身あり

試事理整入童三

人薫炉菌等也

中よりうら

ふきよふ人

糸をかく

日の糸

はく

うら

東風解氷

候也月令

さけ

いかり

まの

まの

まの

まの

菰原能通

能通

能通

能通

能通

能通

能通

能通

能通

能通

能通

能通

能通

能通

能通

能通

能通

能通

能通

能通

能通











いづれ人並乃きけり  
はなれり

うき世のちり  
ふらふらの童女の  
とまらち人乃名とふ  
みちのりよむの万葉  
憶る奇なり何れ又  
そくをよむ事後れ  
りきつるまね古今の  
足つてまふとねま  
何れに幸いぬむ

うき世のちり  
ふらふらの童女の  
とまらち人乃名とふ  
みちのりよむの万葉

憶る奇なり何れ又

そくをよむ事後れ

りきつるまね古今の

足つてまふとねま

何れに幸いぬむ

うき世のちり  
ふらふらの童女の  
とまらち人乃名とふ  
みちのりよむの万葉

憶る奇なり何れ又

うき世のちり  
ふらふらの童女の  
とまらち人乃名とふ  
みちのりよむの万葉

憶る奇なり何れ又

そくをよむ事後れ

りきつるまね古今の

足つてまふとねま

何れに幸いぬむ

うき世のちり  
ふらふらの童女の  
とまらち人乃名とふ  
みちのりよむの万葉

憶る奇なり何れ又

そくをよむ事後れ

うき世のちり  
ふらふらの童女の  
とまらち人乃名とふ  
みちのりよむの万葉

憶る奇なり何れ又

そくをよむ事後れ

りきつるまね古今の

足つてまふとねま

何れに幸いぬむ

うき世のちり  
ふらふらの童女の  
とまらち人乃名とふ  
みちのりよむの万葉

憶る奇なり何れ又

そくをよむ事後れ

源氏物語

卷之十

十

十

十

十

十

十

十

十

十

十

十

十

十

十

十

十

十

十

十

十

十

十

十

十

十

十



















のまはしやんじし  
きりしつらんこ  
われり身いさくさ  
年つてきをまね  
ともなよけり  
本居と三ぬり  
あやめ  
とをきくそえぬ  
心いぬし拾遺  
曹井とつる山乃推  
葉の葉つら  
きみつら  
和歌ま  
くしつら

われり身いさくさ  
とをきくそえぬ  
心いぬし拾遺  
曹井とつる山乃推  
葉の葉つら  
きみつら  
和歌ま  
くしつら

本居 作と那れ

道令は解

後拾遺和歌集第十二

巻二

えんちつらひくへ乃自はり

えんちつらひくへ乃自はり

われり身いさくさ

とをきくそえぬ

實範朝臣のむとめ

ひつらつら

源朝臣

われり身いさくさ

のまはしやんじし  
きりしつらんこ  
われり身いさくさ  
年つてきをまね  
ともなよけり  
本居と三ぬり  
あやめ  
とをきくそえぬ  
心いぬし拾遺  
曹井とつる山乃推  
葉の葉つら  
きみつら  
和歌ま  
くしつら



ついでと別を可  
ひなむらり

つねにあらよのか  
惟仁朝長ヒタリりかむらりてよめる

永源法師

長をこめくか  
長をこめくか  
うまにあらま  
はら月のあふ  
しりしあふ

長をこめくか  
しりしあふ  
平初親朝長のむすめ  
物く又りあ

藤原陸守陸守の信信

長をこめくか  
長をこめくか  
うまにあらま  
はら月のあふ  
しりしあふ

長をこめくか  
しりしあふ  
平初親朝長のむすめ  
物く又りあ

年をふるとも  
くまのりハ  
くまのりハ  
くまのりハ  
くまのりハ  
くまのりハ  
くまのりハ  
くまのりハ  
くまのりハ  
くまのりハ  
くまのりハ

年をふるとも  
くまのりハ  
くまのりハ  
くまのりハ  
くまのりハ  
くまのりハ  
くまのりハ  
くまのりハ  
くまのりハ  
くまのりハ  
くまのりハ

伊勢大浦











ハ猶隠ユカヨとて思入想

心行し人を指あて

こころをいふは

傾きとて思入

心行し人を指あて

こころをいふは

傾きとて思入

心行し人を指あて

こころをいふは

和泉式部

あはれうらみありしは

かたじけなくも乃

越前守越前守宗理宗理をりえとつひて者

せむかれ清清大彌大彌令令姉姉 左衛門雅信家

あはれをあらわし

神りしをあらわし

女乃もとにけり

源隆經朝臣 左衛門賴信子

あはれをあらわし

三十一

あはれをあらわし

あはれをあらわし

あはれをあらわし

あはれをあらわし

あはれをあらわし

あはれをあらわし

あはれをあらわし

あはれをあらわし

あはれをあらわし

あはれをあらわし

あはれをあらわし

あはれをあらわし

あはれをあらわし

あはれをあらわし

あはれをあらわし

あはれをあらわし

あはれをあらわし

あはれをあらわし

あはれをあらわし

あはれをあらわし

あはれをあらわし

源師賢朝臣 左衛門 兼後賢通子







只月結わち多の姓  
一かたしとてあつたのよ  
のむくいさか人な結  
つと養ふとくまひとて  
松とてくもにありまは  
心乃松を父の中より  
のう下結をいづくま  
るまるとしてて彼  
三橋の山幸と本奇  
は乃糸のこやま

ぬー 大郡さるま  
松とてくもにありまは  
こち乃乃まのいづくま  
松とてくもにありまは  
兼仲親長のす午侍たる時  
人かてくもにありまは  
よめる 高階アキヤ親長女  
人めのこまはまのこ乃ま  
兼仲のこ

わうこいはいあまの原  
言れい兵衛の女  
ておれやうまは  
と月よまはな  
りまはな

わうこいはいあまの原  
言れい兵衛の女  
ておれやうまは  
と月よまはな  
りまはな

一宮純伊

只月結わち多の姓  
一かたしとてあつたのよ  
のむくいさか人な結  
つと養ふとくまひとて  
松とてくもにありまは  
心乃松を父の中より  
のう下結をいづくま  
るまるとしてて彼  
三橋の山幸と本奇  
は乃糸のこやま

わうこいはいあまの原  
言れい兵衛の女  
ておれやうまは  
と月よまはな  
りまはな























七ノリヤウノミ  
多クノミヤノミ  
名ノミヤノミ

陽明門院 禎子内親王

三条院皇女 後朱雀院  
院后 後三条院皇女

一〇八一 一品官と

治暦五年四月廿八日

於兩院院号

阿やめ孝かけ一被乃

増牛ノ草玉

富浦の根とこれ

クハ被乃根を

てと泥を

とくくし之を

乃入せらるる

後拾遺和歌集第十三

五三

陽明門院皇女官と

内入せらるる五月廿八日

後朱雀院御製

阿やめ孝かけ一被乃

さくさくし之を

がよけり

はらりたる 清原元浦

黄らりもさつる 社礼















てりく東よきひ就  
 ねく何れに我は月  
 日のりさそりつゆ  
 中はるももさそと  
 事れれのやうに打  
 序房こ下明し  
 かいまきいれんを  
 なるるの道な恨  
 をれんをれとさ  
 しかしきしと道な  
 ねのうに鳴海  
 浦どうす  
 おひやのまよ  
 けあつりまよな  
 とうきりうん

おひやのまよ  
 けあつりまよな  
 とうきりうん  
 かいまきいれんを  
 なるるの道な恨  
 をれんをれとさ  
 しかしきしと道な  
 ねのうに鳴海  
 浦どうす  
 おひやのまよ  
 けあつりまよな  
 とうきりうん

鳴海屋造  
 増基法師  
 右大舟通後

おひやのまよ  
 けあつりまよな  
 とうきりうん  
 かいまきいれんを  
 なるるの道な恨  
 をれんをれとさ  
 しかしきしと道な  
 ねのうに鳴海  
 浦どうす  
 おひやのまよ  
 けあつりまよな  
 とうきりうん

おひやのまよ  
 けあつりまよな  
 とうきりうん  
 かいまきいれんを  
 なるるの道な恨  
 をれんをれとさ  
 しかしきしと道な  
 ねのうに鳴海  
 浦どうす  
 おひやのまよ  
 けあつりまよな  
 とうきりうん

文章得業せ章彌  
 律師 若菜之丞



ありをちのむね  
あはれをちのむね  
すてはねをちのむね  
あはれをちのむね  
あはれをちのむね  
あはれをちのむね  
あはれをちのむね  
あはれをちのむね  
あはれをちのむね  
あはれをちのむね

ありをちのむね  
あはれをちのむね  
すてはねをちのむね  
あはれをちのむね  
あはれをちのむね  
あはれをちのむね  
あはれをちのむね  
あはれをちのむね  
あはれをちのむね  
あはれをちのむね

大和書義忠  
大和書義忠  
大和書義忠  
大和書義忠  
大和書義忠  
大和書義忠  
大和書義忠  
大和書義忠  
大和書義忠  
大和書義忠

ありをちのむね  
あはれをちのむね  
すてはねをちのむね  
あはれをちのむね  
あはれをちのむね  
あはれをちのむね  
あはれをちのむね  
あはれをちのむね  
あはれをちのむね  
あはれをちのむね

ありをちのむね  
あはれをちのむね  
すてはねをちのむね  
あはれをちのむね  
あはれをちのむね  
あはれをちのむね  
あはれをちのむね  
あはれをちのむね  
あはれをちのむね  
あはれをちのむね



よふあつてはあつて  
 うつらひのあつて  
 五葉の三葉のよふの  
 あり  
 成資親長と大臣官  
 まつたつて一車のお  
 あり  
 何れをいふまうかり  
 何れをいふまうかり  
 松乃すまふと重て  
 いらんこちと備山と  
 よめりていふ  
 ぬせらうとあつて  
 ぬ言のよちとあつて

かのくちちけるわすれらうま  
 成資親長やせもらうみまうける時  
 ぬりいわりけるりていふと年  
 のちまよまつりてけるる車よれ  
 せむけるる 大臣官陸奥  
 何れをいふまうかりとん乃山  
 松乃すまふとあつていふ  
 ぬせらうとあつてけるる人を必るん  
 とり男侍をれとせとせりたれ  
 ぬりかたりけるはつていふ

松乃すまふとあつて  
 彼れとあつてあつて  
 再れと本寄りて松  
 村とあつていふ  
 いらんこちと備山と  
 よめりていふ  
 ぬせらうとあつて  
 ぬ言のよちとあつて  
 何れをいふまうかり  
 何れをいふまうかり  
 松乃すまふと重て  
 いらんこちと備山と  
 よめりていふ  
 ぬせらうとあつて  
 ぬ言のよちとあつて

よふ人まうま  
 松乃すまふとあつて  
 人とりぬねらうあつて  
 ぬせらうとあつて  
 ぬ言のよちとあつて  
 何れをいふまうかり  
 何れをいふまうかり  
 松乃すまふと重て  
 いらんこちと備山と  
 よめりていふ  
 ぬせらうとあつて  
 ぬ言のよちとあつて



































とすれと夢のうらや  
いぢる心もわが世  
のふらふらと  
世乃中より  
死のうらや  
りれんと  
命を  
悉く  
よ  
い  
心乃  
く  
ぢ  
つ  
い

よ  
世乃中より  
い  
道命法師  
よ  
い  
平兼盛  
ぢ  
は  
男

つ  
ま  
ら  
ら  
何  
と  
て  
あ  
あ  
お  
師  
の  
何

は  
お  
い  
と  
題  
わ  
あ  
何  
ま  
相  
何  
ま  
和泉式部







あつちう海ももれ  
独れよこれ物さの  
ねいおきちあけせん  
ゆをねとちあせん  
破海の浪のまをな  
皆くちあせん  
かあせんいせん  
九耀七星七八者  
こえ乃甲もか  
ちられと人のつ  
乃ねいせんあね  
のまもれ  
はせんいせんあ  
いせんいせんあ

あつちう海乃をれまこととせん  
ひとわねよれかせんいせん  
かあせんいせんあ  
あつちう海ももれ  
二月いせんいせん  
か  
はせんいせんあ  
いせんいせんあ  
お月あせんいせんあ

荻原長結

荻原長信

ひんせんちのあやめ

上席につくこと  
はげして者も心  
とくよあり

あつちう海ももれ  
人よあつちう海  
すもあつちう海  
さつちう海  
あつちう海  
あつちう海  
あつちう海  
あつちう海  
あつちう海  
あつちう海

和泉武部

ひんせんちのあやめ  
お月あせんいせんあ

あつちう海ももれ  
人よあつちう海  
すもあつちう海  
さつちう海  
あつちう海  
あつちう海  
あつちう海  
あつちう海  
あつちう海  
あつちう海















かき集めて精のやと  
精のね居ると七月と伏  
とより 夏兼 伏精もやは  
ねん入る我の道は  
進ねをわくあつた  
也いねるぬに序あて我  
ふらふねをわくあつた  
とより 夏兼 伏精もやは  
我の春のよ  
をえ大ようしてまの  
ふやうふやうに  
も乃野のけはる  
方これ野大られ  
春日野に名のよ  
す月野の烽火おぼ

我の春のやまのけはる  
とより 夏兼 伏精もやは  
ねん入る我の道は  
進ねをわくあつた  
也いねるぬに序あて我  
ふらふねをわくあつた  
とより 夏兼 伏精もやは  
我の春のよ  
をえ大ようしてまの  
ふやうふやうに  
も乃野のけはる  
方これ野大られ  
春日野に名のよ  
す月野の烽火おぼ

相模

相模

かすののけはる  
けはるのけはる  
けはるのけはる  
けはるのけはる  
けはるのけはる  
けはるのけはる  
けはるのけはる  
けはるのけはる  
けはるのけはる  
けはるのけはる

けはるのけはる  
けはるのけはる  
けはるのけはる  
けはるのけはる  
けはるのけはる  
けはるのけはる  
けはるのけはる  
けはるのけはる  
けはるのけはる  
けはるのけはる

平兼盛







